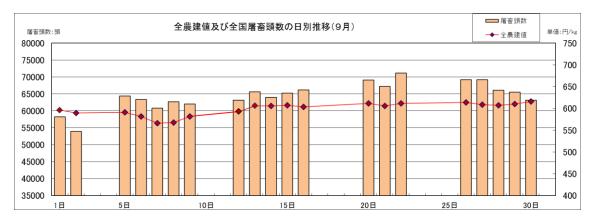
肉豚インフォメーション(9月)

【全農建值】

2022年9月(税抜)	2021年9月(税抜)	※過去 30 年で	最も高い
599 円/kg(44 円高)	555 円/kg		

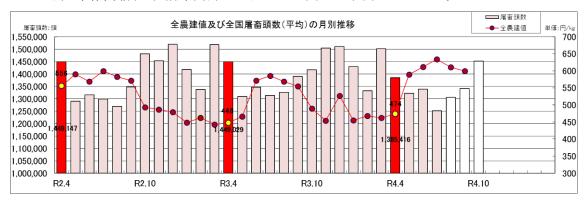
9月は、上旬にかけて頭数が伸び悩んだことや歴史的な円安を背景とする輸入豚肉の高騰により国産豚肉の代替需要が高まったことから過去30年で最も高い相場展開となった。

相場



10月以降の動向

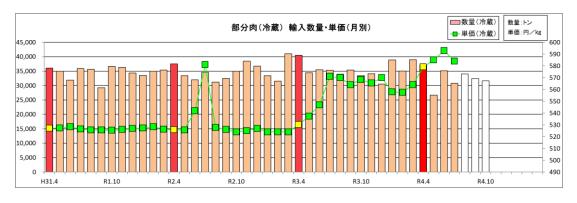
10月の出荷頭数は、前年同月をわずかに上回ると予測されている。

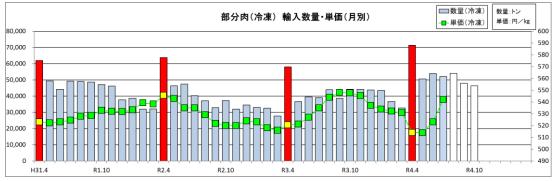


冷蔵品輸入量は、北米における現地価格の高騰及び為替相場の変動等が続いていることから、9月はかなりの程度、10月はやや、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、9月はスペイン産の輸入量が引き続き多いこと等から前年同月を大幅 に上回ると予測する。10月は為替相場の変動がより影響してくるものの、前年よりも北 米等からの輸入量の増加が見込まれることから前年同月をやや上回ると予測する。なお、 3カ月平均でも、前年同期を大幅に上回ると予測する。

(ALIC 豚肉の需給予測について 9月28日)





令和 4 年 1 0 ~ 1 2 月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和 4 年 7 ~ 9 月期価格を据え置きとなった。

円安を背景に輸入相場が高騰していることから、今後も輸入量は少ない見込み。国産豚肉の代替需要の高まりは相場の下支え要因となる見込み。

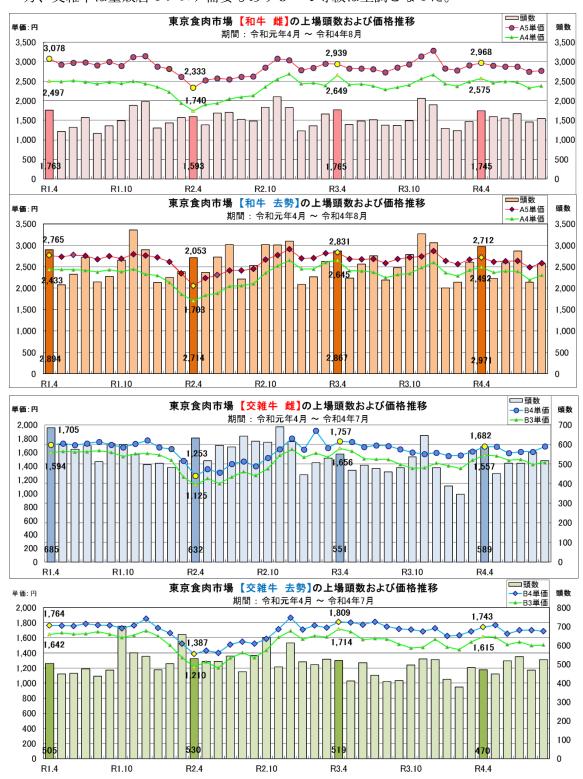
また 10 月 11 日より予定している「全国旅行支援」による観光支援策により観光地や飲食店等の外食需要が回復することを期待したい。

10月の相場は上旬にかけて堅調に推移し、中旬以降は軟調に推移する見通し。全農建値(税抜)予測レンジは550円~650円とする。

肉牛インフォメーション (9月)

●9月の動向

卸関係が在庫を抱えていたこともあり厳しい相場展開となった。和牛は月後半には上物の引き合いが出てきたが、つくりが悪いものは値が伸びず、同等級内の価格差が広がった。 一方、交雑牛は量販店のフェア需要もあり3~4等級は堅調となった。



3/6

●10月の動向予測

東京の上場頭数は昨年並みの 7500 頭を見込む。これまで相場を下支えしていた冷凍保管 事業の保管開始期限の延長が正式に決まった。また、年末に向けた共励会等が増える時期で もあるため 9 月の強もちあいと予想。

10月相場は「強もちあい」の展開と予想。

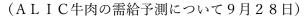
和牛去勢 A5 等級 2,600 円 (税込み) A4 等級 2,450 円 (税込み)

交雑去勢 B4 等級 1,750 円 (税込み) B3 等級 1,650 円 (税込み)

●輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、需要の減退や為替相場の影響等から、9月、10月ともに前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、為替相場の影響はあるものの、9月は前年同月の豪州産及び米国産の輸入量が少なかったこと等から前年同月をかなり大きく上回る一方、10月は前年同月の豪州産の輸入量が多かったこと等から前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。





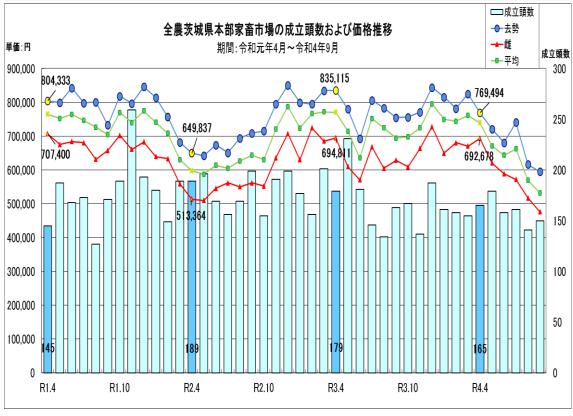
●消費動向

9月はバラを中心に値が緩んだ。相次ぐ台風の影響などにより外食だけでなく小売りの需要も伸び悩んだ。10月は行楽需要の期待が高まるとともに、秋冬向けの提案が本格化するため、カタロースやモモを中心に手当てが増え、ウデも荷動きが少しずつ良くなる見込み。また、受け入れ拡大したインバウンド需要の回復にも期待が高まる。

●全農茨城県本部家畜市場動向

素牛平均価格 (9月税込) は、黒毛和種の雌は 476,244 円で前月比▲40,906 円、去勢は 594,914 円で前月比▲24,585 円となった。上場頭数 (成立) は 150 頭で前月比+9 頭。 次回上場頭数は 160 頭を予定している。

		年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度	平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
	去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
	雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度	平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
	去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
	雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度	平均単価	636,358	739,233	671,234	643,591	662,357	569,995	531,740						
	去勢	687,331	769,494	721,233	680,689	741,157	616,499	594,914						
	雌	577,974	692,678	620,672	589,102	572,000	517,150	476,244						
2年度	成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度	成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度	成立頭数	159	165	179	158	161	141	150						



食肉インフォメーション(9月)

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査8月度結果報告によると、3年ぶりに行動制限が掛からない盆休みとなったことから全体売上は前年比で118.0%となった一方で、コロナ第7波の感染拡大ピークとなった影響で平日と夜の客足が伸び悩み、特に居酒屋業態では2019年比で44.2%と非常に苦戦を強いられた。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の8月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,203億円(前年同月比97.0%、既存店ベース95.5%)で、外食の回復に伴う内食需要の低迷により買上点数が減少した。牛肉は国産・輸入ともに焼肉・ステーキ用が好調もその他は不振で、豚肉も国産の相場高騰により動きが鈍かった。畜産部門全体で原価が高騰し、利益が圧迫されている状況となっている。

9月は敬老の日・秋分の日による2度の3連休があり、観光需要への期待値は高い。一方で消費者の節約志向も引き続き高く、加えてコロナ感染者数の動向次第で需給が大きく左右されてしまうと思われる。

○牛肉

8月は、国産では焼肉・BBQ用のセット商材として肩ロースやバラなどの焼き材を中心に荷動きがあったが、台風や酷暑の影響で動きが鈍る地域があったほか、和牛ロースなど単価が高い商品は引き続き不振となった。輸入牛は円安の影響もあって価格の高止まりが続いており、目立った動きは見られなかった。

○豚肉

8月は、国産では7月下旬より学校給食の中断で鈍い荷動きとなっていたが、盆休みが近づくにつれて焼肉用のバラを中心に活発な荷動きとなった。輸入では、入船遅れによる供給不安定からバラの需給がひっ迫した一方で、冷凍品は在庫過多となり需給が軟化傾向となった。

○業態別概況

表:全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績(令和4年8月期) 単位:千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸食肉		量販店	飲食店	合計
					専門店			
令和2年8月	11,637	13,166	6,133	33,174	17,802	10,507	5,101	97,520
令和3年8月	10,021	13,067	673	29,433	13,956	13,397	5,128	85,675
令和4年8月	10,607	14,709	1,875	22,213	18,074	9,862	6,317	83,657
増減(R3-R4)	586	1,642	1,202	-7,220	4,118	-3,535	1,189	-2,018
対比(R2-R4)	91%	112%	31%	67%	102%	94%	124%	86%
対比(R3-R4)	106%	113%	279%	75%	130%	74%	123%	98%